

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100459		
法人名	医療法人おもと会		
事業所名	グループホームたんぼぼ		
所在地	那覇市寄宮一丁目9番5号		
自己評価作成日	平成30年12月5日	評価結果市町村受理日	平成31年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyoNoCd=4790100459-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyoNoCd=4790100459-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成31年3月5日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> <li>5S活動の実践、継続により感染予防に取り組む。</li> <li>笑顔と元気をモットーにしています。</li> <li>入居者様に安心して生活していただけるように家庭的な環境、真心を込めて支援いたします。</li> <li>ご家族様支援も大事に考え実践していきます。</li> <li>質の良いサービスの提供ができるように職員のスキルアップを行っています。</li> </ol>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念については、「笑顔」と「気づき」を大切し、利用者には「自分の家」として不安なく過ごされるようお手伝いします。と謳われ、4つの具体的な方針を示している。職員は、事故のない安全な介護や医療連携のもと、利用者が安心して生活が送れる支援に取り組んでいる。事業所は開設当初から運営推進会議に地域代表として3か所の近隣地区自治会の方が参加し交流を図っている。地域への協力として、施設ビルの地域交流室などを地域へ開放し、月1回認知カフェや自治会主催の敬老会の準備、司会などの運営を法人全体で支援している。本事業所は今年度より自治会に加入し、観月会への参加や自治会活動の一環である年2回の道路やマンホール掃除に職員が参加するなど、地域の一員としての活動が繰り返されている。就業環境については、職員個別の事情により夜勤を外したり、早出勤務にし家族介護ができるよう配慮し、仕事が継続できる環境づくりに努めている。その他、資格取得による正規職員雇用や勤務調整、連休希望などにも対応できる職員配置がされている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示して、職員は理解し、実践している。	理念については、共に「笑顔」と「気づき」を大切し、利用者には「自分の家」として不安なく過ごされるようお手伝いします。と謳われ、4つの具体的な方針を示している。職員は、事故のない安全な介護や医療連携のもと、利用者が安心して生活が送れる支援に取り組んでいる。具体的には、利用者が遠慮せず自分の家のように、何でも言えるような環境や警戒心を持たないで過ごせるよう、笑顔や気づきを持ち合わせた職員像を共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域3自治会の清掃活動や敬老会、民生委員行事に協力、参加して交流を図っている。今年から担当包括支援センターの勉強会の講師や地域見守り隊の会議場所の提供を行っている。	地域とのつきあいについては、事業所は開設当初から運営推進会議に地域代表として3か所の近隣地区自治会の方が参加し交流を図っている。地域への協力として、施設ビルの地域交流室などを地域へ開放し、月1回認知カフェや自治会主催の敬老会の準備、司会などの運営を法人全体で支援している。本事業所は今年度より自治会に加入し、観月会への参加や自治会活動の一環である年2回の道路やマンホール掃除に職員が参加するなど、地域の一員としての活動が繰り返されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センター主催の認知症の家族との勉強会(おしゃべり会)に参加している。運営推進会議においてホームの取り組みを報告し、入居している認知症の人の理解や支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議で事故、ヒヤリハット等を報告、那覇市や地域包括支援センター、地域自治会からの情報を共有している。	運営推進会議については、2か月毎の偶数月に会議が開催され、利用者や知見者、行政と地域包括支援センター職員も毎回参加している。本事業所の特徴として、近隣3区の自治会が地域代表の構成員であり、毎回複数名が参加している。会議は、活動状況や事故などの報告もあり、活発な意見交換が議事録より伺える。家族代表の不参加が数回見られることから、次年度より年間を通して参加してもらえよう、家族会において割り振りして協力を要請している。運営推進会議の議事録の閲覧が確認できない。参加が期待される。	運営推進会議は、構成員間で事業所のより良い運営について検討する場であることから、家族代表の参加及び、事業所への訪問者が議事録を閲覧できるよう公表が望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	那覇市グループホーム連絡会へ参加して情報交換や市の担当者からのアドバイス等交流を図っている。	市との連携については、運営推進会議に行政職員と地域包括支援センター職員の2名が毎回参加し、アドバイスや情報交換を行っている。市のグループホーム連絡会が定期的実施され、市職員も参加しており情報共有の場となっている。管理者は、市内の他グループホーム運営推進会議の知見者として参加しており、行政職員との情報交換や連携を図る場を有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の居室、玄関の施錠や身体拘束は行っていない。	身体拘束をしないケアについては、事業所内で抑制廃止検討会が行われ、過去に4点柵の使用もあったが、現在は、身体拘束のない支援が実践されている。年間計画として、職員間での身体拘束廃止検討会議や運営推進会議の中で適正化のための検討会が行われ、記録は簿冊で保管している。職員は外部研修に参加するとともに、事業所内勉強会の中で、指針の読み合わせや高齢者虐待及び身体拘束の理解を深め、利用者の権利擁護に取り組んでいる。指針の名称の検討及び項目追加が望まれる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内勉強会や外部研修へ参加して学び、全職員で虐待防止に取り組んでいる。	虐待の防止については、虐待防止に関する指針が作成され、権利擁護などケアに関する勉強会を年間計画に位置付けし実施している。管理者は、沖縄県グループホーム協会の研修委員をしており、内部研修はもとより外部研修に職員を派遣し、資質向上に取り組んでいる。日々の支援において、職員の言動などが気になる場合は、その場でやんわりと本人に伝えるとともに、人のふり見て我が身を振り返ることを皆で共有している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者はいないが、県外に住むキーパーソンとの連絡を取り合い支援している方がいる。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定や重要事項説明書、個人情報保護に関する説明書を書面、口頭にて十分に説明した上で契約、解除を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事等への参加呼びかけ、12/15の家族会では家族の意見や要望等を確認するようにしている。	利用者、家族等の意見については、居室担当を中心に、「おうちに帰りたいさあ」など、日常生活での利用者の声を聴くよう心がけ、利用者の思いを代弁し、面会や外泊などに繋げている。家族の要望などは、面会時や担当者会議の他、毎年、家族参加の忘年会と合わせて家族会を実施し、聞く機会としている。家族から「小遣いでヨーグルトを食べさせてほしい」などがあり、散歩がてら買い物に出かけるなどして対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会や毎日の申し送り時において職員の意見や要望を聞き、提案された事項は迅速に対応して、反映されるよう努めている。	職員意見の反映については、毎月のミーティングや申し送りなどで意見を聞くようにしている。日常における職員個別の要望や相談などについては、主任へ要望や相談を行い、主任から管理者へ報告する体制を取っている。職員の個別事情も踏まえ、要望や意見をもとにミーティングで話し合わせ、利用者の移譲介助や入浴担当、夜勤担当など、これまでの勤務体制を変更するなどして対応している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤怠管理は希望休を聞き入れ配慮している。職員の能力を引きさせるよう行事の役割や委員会を配置している。	就業環境については、基本的には日勤や夜勤などシフト制となっているが、職員個別の事情に配慮し、仕事が継続できる環境づくりに努めている。例えば、妊娠している職員については、入浴介助や夜勤を外したり、介護休暇後の職員には、本人希望で早出勤務にし、午後は病院受診など家族介護ができるよう配慮している。その他、資格取得による正規職員雇用や勤務調整、連休希望などにも対応できる職員配置がされている。職員は定期的に健康診断も実施している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修(救急救命、喀痰吸引、救急救命指導者、リーダー研修)等へ派遣、資格の取得、ホーム内勉強会で伝達報告の機会を設け、自己研鑽を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会主催の介護者研修の参加、他事業所との交流を通じてケアの質の向上、モチベーションアップを図っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時や実態調査において、本人の要望や不安などを傾聴し信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望を確認し、ホームでのサービス内容や家族支援内容の説明を行い、家族との信頼関係に努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や病院・施設からの情報を素にアセスメントを行い、入居後には本人の観察をして生活の方向性や必要なサービスを確認する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境の中で家事や炊事、洗濯物干し・たたみ等、個々に合った役割を設け、手伝ってもらう。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へ面会の声掛けや誕生会、行事等に家族を交えた活動を通して、入居者が孤立しないように配慮している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との面会、行き付けの美容室への外出動向等の体制づくりを行っている。	馴染みの人や場については、運営推進会議に参加している地域住民と面識があり交流している利用者や階下のデイサービスの知人が時折訪問し交流している。事業所近隣の利用者は、これまで通われていた美容室へ入居後も2か月に1回、定期的に出かけている。日曜日は、近隣公園への散歩やスーパーでの買い物、家族との外出や外泊など、馴染みの場や人との継続支援に努めている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	余暇活動への参加呼び掛け、食卓の席の配置換え等を行って入居者が孤立しないよ支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族の相談できる機会づくりに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が意思や意向を伝えるのが困難な場合は、家族からの情報を参考にして本人に合った支援を行うよう努めている。	思いや意向については、アセスメントや日々の生活における関わりの中で、利用者の思いを理解し把握するよう努めている。食事の時など利用者の隣に座るなどして、担当利用者との関わりを深め、行動や顔の表情などを通し、本人の思いの把握に努めている。職員は、利用者が笑顔で過ごしてほしいとの思いを基本にしており、利用者が嫌がるような支援にならないことが、暮らし方の意向や希望と理解し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談や実態調査の際には、本人の要望や不安等を傾聴、信頼づくりに努めている。本人や家族から十分に話を聞き、入居前の利用した事業所からの情報提供を依頼、把握して当ホームに入居しても極端な環境の変化が起きないように努める。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝に実施しているバイタルチェックや日常の変化に気をつけている。毎日、10時と14時にミーティングを行い現状の把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員からの情報、本人、家族の意向を反映した介護計画を作成している。	介護計画については、長期目標と短期が1年、モニタリングを3か月ごとに実施している。基本的には介護保険有効期間が2か年でも、毎年アセスメントを実施し介護計画が作成されている。利用者の状態により、訪問歯科導入や歩行から車椅子使用など、随時の見直しも行われている。平成30年4月より介護記録様式が見直され、「食器洗いなど、やりたい事やできることを行う」などの目標に添った記録や日々の支援が記入しやすいよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個々の状態や様子等を個人記録へ記入して職員間で情報を共有し対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	意見、要望がある場合は迅速検討、対応している。		



自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人合った地域資源(美容室、歯科、スーパー等)の確認をして、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように努める。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全入居者は法人内の「クリニック安里」の訪問診療によって、適切な医療をうけている。また、病状によっては往診での対応も可能である。	月2回の訪問診療を利用者全員が受診し、情報提供書に疑問があれば記入、医師が回答している。婦人科や泌尿器科、耳鼻咽喉科等の受診は、介護タクシーを利用する等家族が通院支援を行っている。週1回の訪問看護が行われ、適切な医療支援に努めている。年1~2回健診を行い、検査詳細情報がファイルされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一建物内にある「訪問看護ステーションかみっはら」と24時間連携して入居者の体調管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前の経過や情報提供、退院前のカンファレンス会議等へ参加して情報を共有、関係づくりを行っている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開所5年間で3名を看取った。今後も見取りを希望される方々へは、家族、訪問診療、訪問看護、関係者、ホームスタッフがチームとなって支援に取り組む。	看取り指針を作成し、利用者や家族に対し、入居前に事業所の方針を説明している。入居時に「これからの医療に関する確認同意書」を利用者全員に提出してもらい、利用者の意向に沿った支援に努めている。看取りを希望する場合は、時機を見て「看取りに関する同意書」を提出している。昨年3月と12月に看取りを行った実績があり、今後は、看取り加算などの環境整備を整えられるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成・活用している。毎年、全職員はAED(救急救命)研修を受講、知識と技術力を身につけている。今年度も介護職員1名がBLS(AED指導者)の資格を取得し、指導者が2名となった。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は実施している。地域との協力体制は未だ確立されてない。災害備蓄品の見積が届いたので、法人の承認がおりた時点で発注予定している。	複合施設全体で、年2回避難訓練を予定しているが、昨年3月は未実施である。昼間想定の実験が11月22日に実施され、実績報告書や写真も添付されている。今年3月22日に夜間想定の実験が予定されている。備蓄は複合施設全体を法人で管理していたが、今後はフロアごとの管理になるので、食料品等の発注を準備中である。	夜間想定の実験を早急に実施するとともに、備蓄についても事業所での管理が望まれる。
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーは守っている。言葉での抑制がないよう、不適切な声掛けがないか、全員で注意を払っている。また、互いに注意し合える間柄になるように努めている。	不適切なケアがないよう職員は定例会や勉強会で話し合っている。各居室や浴室はドアの前にカーテンも取付けており、おむつ交換時は声かけをする等、一人ひとりの尊重やプライバシー保護に努めている。個人情報保護方針は詳細に作成され、掲示されている。動画や写真の利用についても、同意書を取り、それぞれの意向に沿った対応をしている。各居室には、「入居者様の権利」を掲示し、利用者の権利や個人情報の保護について説明されている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できる声掛け、環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースに合った生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴、更衣は本人に選んでもらっている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしの髭取り、野菜切り、食器洗い、お膳拭き等、入居者の「できること」に合わせた役割を支援している。	法人栄養士が献立したものを、3食とも事業所職員が交替で調理している。調査当日の昼食はソーキの煮つけが主菜であり、利用者はほぼ完食であった。透析の利用者へは、塩分や果物、海藻等に注意して調理している。利用者は食器洗いやお膳拭きなどに参加している。職員は、食事介助や弁当を持参で一緒に同じテーブルで食べる人もいたが、同じ食事を一緒に摂ることが確認できなかった。	事業所の特性を踏まえて、グループホームの趣旨である利用者と一緒に食事を楽しむ環境づくりの検討が望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立表を使用して食事を提供、栄養のバランスは整っている。チェック表を活用して食事摂取量や水分摂取量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの支援を行っている。ほとんどの入居者が訪問歯科の歯科衛生を受けている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人本位の排泄支援、排泄パターンを把握して声掛けトイレ案内、オムツ交換の排泄支援を実施している。	排泄支援については、利用者の排泄パターンを把握し、本人の負担感へも配慮しつつ、日中はほぼ全員トイレに案内している。夜間でもポータブルトイレの使用よりは、トイレ誘導を基本とし支援している。後期高齢者などの夜間排泄支援については、睡眠を取ることを優先にしたいとの方向性も持って対応している。おむつ使用の場合は、皮膚への配慮のある夜間用パッドを利用している。おむつからリハビリパンツなどに変えるなど、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた便秘予防(水分補給、運動)に取り組んでいる。毎朝、乳製品、おやつに牛乳やプリン、ヨーグルトを提供している。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日を設定している。希望によっては曜日の変更も対応している。担当職員が入居者のペースに合わせて脱衣、入浴、着衣、整容までの支援を行っている。冬には浴槽に浸かる方もいる。	入浴については、週2～3回を基本として、時間帯については柔軟に対応している。冬場は浴槽も使用する利用者もあり、足浴を好む利用者もいる。脱衣や入浴室の出入り時は、タオルをかけ保温や羞恥心などに配慮している。入浴の声かけに応じない場合は、清拭で対応したり、言葉かけの工夫や職員2人で対応する等個々に沿った支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくりと休息してもらえるように居室内・外の空調の調整や環境づくりを行っている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問看護職員を中心に薬の管理を行っている。薬の注意事項や用法についてはカルテに綴り、いつでも確認できるよう整理している。	服薬支援については、事務室で薬を一括管理し、遅番と夜勤の職員が毎日の薬をセットしている。服薬支援マニュアルとして、「一人ひとりの服薬内容」や「個別の内服薬服用の仕方」がファイルされている。運営推進会議の議事録で、飲み忘れによる事故報告書が提出されている。	安心・安全な服薬支援のため、飲み忘れなどの再発防止の取り組みと情報共有が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や好みを把握し、編み物やフラフープ、カラオケ、体操、塗り絵、タイプライターなど職員と一緒に楽しんでいる。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の公園まで散歩したり、おやつを買いにスーパーまで車で出かけたりにしている。	外出支援については、近隣の公園や事業所周辺を散歩している。職員は日曜日は日常業務を離れ、利用者と一緒に散歩やドライブ等の外出支援に努めている。昨年はちゅらさんビーチで浜下りをしている。恒例の初詣は、インフルエンザの感染のため見送っている。花見は2回に分け、与儀公園の桜見物を行っている。外出できない場合は、1階で外気浴の支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者全員が家族管理。ホームではお小遣いを預かって金銭出納帳に記入、買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の要望に応じてその都度対応している。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルやソファの配置の工夫、安全に楽しんでくつろげる環境づくりに取り組んでいる。	居間は、程よい明るさで清潔感があり、ソファやテーブル、畳間が設置され、利用者がどこでも居心地よく過ごせるよう工夫している。事業所のある4階からの眺めがよく、家のある小祿方向を毎日眺める利用者もいる。タイプライターが置かれ、米軍基地で働いたことのある利用者が英語の勉強に使用している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月17日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子の配置に工夫し、リラックスできる居場所づくりを行っている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使用していた家財道具や小物などを持参し、写真や絵を飾りできるだけ自宅に近い環境づくりに努めている。	全室洗面台が設置され、寝具類も事業所が提供している。壁には「入居者様の権利」が貼られ、介護サービスを受けることができる権利の説明がある。利用者は家族写真や人形、趣味の手芸作品等を飾っている。安室奈美恵のポスターや大好きな犬の写真を飾っている居室もあり、本人の好みに合わせた居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目で見てわかるよう掲示物(表示)にて場所を示している。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームたんぼぼ

作成日 : 平成 31 年 4 月 8 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	(17)	グループホームの趣旨である利用者と一緒に食事を楽しむ環境づくりが望まれる。	利用者様とできるだけ一緒に同じ食事が摂れるようにする。	一緒に食事を摂れる環境の確認・実施。 ・週1回でも同じ食事を摂る事ができる職員配置を行う。	2ヶ月
2	(15)	夜間想定避難訓練を早急に実施するとともに、備蓄についても事業所での管理が望まれる。	早急な夜間想定避難訓練を実施する。 事業所内での備蓄管理を行う。	日程調整を行い夜間想定避難訓練を行う。 管理場所の確保、備蓄品を購入する。	2ヶ月
3	(3)	運営推進会議は、構成員間で事業所のより良い運営について検討する場であることから、家族代表の参加及び、事業所への訪問者が議事録を閲覧できるよう公表が望まれる。	議事録の閲覧できるよう公表を行う。 運営推進会議に家族参加ができるようにする。	玄関先へ議事録を掲示する。 輪番制による家族参加の実現する。	1ヶ月
4	(20)	安心・安全な服薬支援のため、飲み忘れなどの再発防止の取り組みと情報共有が望まれる。	服薬マニュアルの再確認する。	職員間で服薬マニュアルに沿った服薬支援が行われているか、内服薬の確認、与薬後の記録へのサイン等を確実にこなす。	1ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。